



御所市議会議員

こんにちは！〈市議会報告 vol. 18〉

川本まさきです

2023年7月

発行:川本雅樹

ご相談・連絡は下記まで

〒639-2314

御所市幸町 296-1

TEL 090-9881-0077

FAX 62-3858

「デマンドタクシーの乗降場所は多少増やすのではなく、結構な数を増やす」

6月定例会は6月15日から26日まで、12日間開かれました。私の一般質問は6月20日に行い、3月定例会に続いて「地域公共交通の課題」を取り上げました。主なやり取りは次のとおりです。

採決では、市長から提出された「御所市条例の一部を改正する条例の専決処分の報告」を始め10項目の報告を受け、令和5年度一般会計補正予算及び「(仮称)御所市防災市民センター建設事業請負契約の変更」など4項目の議案を承認しました。また、「日本政府に核兵器禁止条約の参加・調印・批准を求める意見書」が決議されました。

デマンドタクシーの運行状況等

(川本)今年1月11日から新しい地域公共交通が始まった。デマンドタクシーについて、3月定例会で1月、2月の利用者数を確認したが、1月は103人で1日平均5.7人。2月は185人で1日平均7.7人だった。3月、4月、5月の実績はどうか。

(理事者)デマンドタクシーの3月の利用者数は220人で1日平均8.1人。4月の利用者数は179人で1日平均7.2人。5月の利用者数は223人で1日平均8.3人。1便あたりの平均利用者は1人5.2人。

(川本)3月定例会で、「4月以降に利用者アンケート調査を行う」と答弁されているが、現在、アンケート調査は行っているか。

(理事者)行っていない。4月以降というのは新年度以降という意味で、実際には10月にアンケートを実施したい。

(川本)3月定例会で、「地域に入ってきた生の声を聞いてほしい。面談でどうという要求があるか、掴んでほしい」と訴えたところ、

市長は、「理事者側として利用者の声を聞くのも重要」と回答された。どんな努力をされたか。

(理事者)自治会からまちづくり出前トークの要請をいただいたところ2か所に出向いて意見をもらっている。また、停留所の増設や移設に関して、7か所の自治会から意見や要望を受けている。

デマンドタクシーの見直し状況

(川本)御所市のデマンドタクシーの乗降場所は45か所、行先は9か所。香芝市は乗降場所がほぼ自宅前で、行先は行政施設や金融機関、駅、商業施設、医療機関、福祉施設、学校など280カ所ある。この違いは決定的だ。これをどう考えるか。

(理事者)できるなら香芝市のように行き届いたサービスができれば高齢者に喜んでいただけれると思うが、香芝市は年間5000万円ぐらいかけて運行されている。一人当たり一回1000円以上かかっている。このうち本人の負担は200円ということ、財政を圧迫してしまうという問題が起きている。それと民業圧迫ということもある。かといって今のまままで放置することも考えていない。御所市ができる範囲で、交通弱者の方にもう少し手厚い支援ができないものか、しっかりと考えていきたい。

(川本)しっかりと考えていくのは結構だが、本当に市民は待っている。私、香芝市に行くと担当者に直接話を聞いた。香芝市も当然、タクシー協会からいろんな意見はあるが、市民の外へ出る機会を保障し、いろいろな文化的な生活を考えたら、今、このようにやっている。御所市も具体的にどこをどう改善するんだ、ということとを言っていたか、と話の前に進まない。

(理事者)具体的に今「」を「」としてい

うことは、軽々に申し上げられない。一旦、何もかもほとんど充足させてしまうと、それをまた元に戻したり、少し条件を悪くしたりはなかなかできることではない。

(川本)停留所を増やす考えはあるか。
(理事者)この秋にはこの実証運行中には何とか改善できる方向で、運行事業者と調整した上で、運輸支局にも手続きをして、停留所の増設とか移設を進めていきたい。

(川本)停留所の増設と言われたが、もう少し具体的に箇所数とか、どんな考えか。
(理事者)現在まだ精査中だが、自治会の意見も参考にしながら、今までの箇所数よりももう少し増やして、利用頻度等も考えながらきちっとした形で示したい。
(副市長)ある程度の一定数以上の数を増やす。結構な数になる。

(川本)今、目的は9か所しかないが、これを増やす予定はあるか。
(理事者)目的については、今のところ変更する計画はない。

「民業圧迫」を緩和するために

(川本)民業圧迫について、私もタクシー会社はどうなってもいいと考えるものは決まらない。むしろ乗降者の支払った運賃は香芝市のように運行事業者に入るようにすることも含めて、どうすれば両立できるか、市の見解を求めたい。

(理事者)これについては、一般乗用タクシー1日1台当たりの営業収入の実績値を根拠に運行委託料をタクシー事業者に支払っている。上乗せで支払う必要がないと判断する。

(川本)聞いていたら八方塞がりだ。行き先は増やしません。乗るところは、数は言えないがいくら増やす。それで運行事業者には1日2万5000円固定ですよ。もっと柔軟に考えられないか。

「コミュニティバスの運行状況

(川本)コミュニティバスの運行状況はどうか。1月の利用者数は963人で1日平均33.2人、1便当たり2人。2月の利用者数は912人で1日平均32.6人、1便当たり2人だった。3月、4月、5月それぞれの実績はどうか。

(理事者)コミュニティバスの3月の利用者数は835人で1日平均30.9人。4月は960人で1日平均32人、5月は930人で1日平均30人、1便あたり2人。

(川本)利用者が低迷している。コミュニティバスは2004年度から西コース、東コースの2つのルートで運行を開始し、2008年度では5万2144人、月平均で4345人、1日平均で145人だったが、2021年度は年間61%減の2万266人になっている。これが今では1日平均で30人程度。こんな状況で何ら問題ないと考ええるか。また、市民の中には「以前のようにかきみの湯まで行ってほしい」「南部にも元通り、ひまわり号を運行してほしい」という声があるが、どう考えるか。

(理事者)市北部は輸送密度の高い、たくさんの人を一遍に運べるということ、このような計画にした。南部に行くには、奈良交通の路線バスの利用者が年々減っており、これを利用することで、この路線を守っていく必要がある。というのも御所市の場合、奈良交通の乗客数が年々減少しており八木から新宮行き、御所から八木行きなどの路線について、補助金を年間約1000万円出している。

(川本)その結果、コミュニティバスは1便あたり平均利用者は2人ですよ。今言われた密度の高いところにバスを走らせて2人しか乗ってないですよ。以前の方がまだ乗っていたでしょ。北に限定したために、かえって人が少ない。本当の意味で検討さ

れたのかという疑問を持っている。**副市長**（北部のコミバスの利用者数が極端に減ったというのは私もちょっと驚いている。反省すべき点かなど。こういう結果が出て、便数は増やして利便性を上げたということではあるが、コミバスの運行は是非とも再考するべきと考える。

南北に分けずに市全域にバス、市全域にデマンドを検討されたい

（川本）今、副市長は率直にちょっと不十分だったと認められた。市民から私にいただいたご意見のなかに「南と北に分かれてしまつて御所市が分断されているよ」で寂しい」というものがあった。私もそうなんだと気がついたが、デマンドもコミバスもそれぞれ特性がある。デマンドは自分の希望する時間に、直接的に目的地に行けるという特性がある。コミバスは予約をしなくても定時にその場所に行けば、時間はかかっても目的地に行けるという特性がある。この2つの交通手段をその人に合う方法で保障するという意味で、エリアを分けずに運行するのが適切だと思うが、いかがか。

（理事者）コミバスとデマンドを併用できるのが理想と思うが、それをするにはまた、バスを市内全部回さなかんということになるが、かなり皆さんの利用効率が悪くなるのではないか。今は実証運行をしている時なので、できるだけいろんなデータを集めて市民にとってどれが一番いい方法か、研究、検討していきたい。

ライフにもコミバスで行きたい

（川本）ライフに行くのに、近鉄御所駅まで乗って、そこから歩くのだが、帰りは荷物でたいへん。トライアル・コメリやスーパーセンター・オークワは入っているのに

なぜライフが入っていないのか。ライフにも停まるようにしてほしい」という声があるが、どうか。

（理事者）過去に、ライフ駐車場内において停留所の検討をしたが、乗客車両の駐車運行ルートの妨げになること、また、運行ルートの動線がライフ周辺にないこと、さらに停留所の安全性の確保が困難であることから、新設は難しい。

（川本）今のままではちょっとたいへんだけれども、もう少し全体の体系を見直すなかで、可能になるかもしれないと受け止めた。

今のような乗客数ならば、27人乗りのマイクロバスはいらない

（川本）コミバスの更新時期はいつか。

（理事者）今年度末、来年の3月となっている。

（川本）今のような乗客数であれば、27人乗りのマイクロバスではなくて12人乗りのワゴンタイプで十分ということになるが、いかがか。

（理事者）ワゴンタイプの車両を検討したが、最大定員が乗務員席を除いて13名となっており、繁忙期であるツツジシーズンや秋の行楽シーズン時に、住民の乗り残しが発生する可能性があること。車内の室内高が1.565メートルであることから、後部座席での乗り降りや前かがみでの乗り降りが必要であるので、高齢者には利用しづらいと考えているのでマイクロバスの購入の方向で進めていきたい。

（川本）ツツジが観光シーズンの時にキャパがなかったらあかんとのことだが、そんなのは1年のうちに何日あるか。本来、コミバスは観光客がメインではない。それはそれで臨時バス出すとか、それこそ奈良交通を利用していただいたらいいのでは？

（理事者）あくまで昨年度の数字だが、1回に14名以上乗車された日が8回あった。

（川本）年間で8回。ほとんど毎日人が乗っていないですよ。そのために大きい車にこだわるのか。

副市長）2台で運行している関係上、1台はまだ入ったばかりで、例えば大きい方と小型と併設する形がどうなのかという面もある。そのあたりも含めて、バスの大きさについては慎重に検討したい

（川本）最初の答弁から変わってきた。1台は大きい、1台は大きくないこともあり得るということを示唆された。「費用対効果」を考えなければいけない。

交通は社会を支える基本的人権

（川本）ここで交通の意義を再度確認しておきたい。交通は人間社会を支える基本的人権。人間は社会的な存在で、一人では生きていけない。あくまでも人と人の交流を図る人権、これが保障されるべき。世界人権宣言第27条で何人も自由に移動する権利が謳われている。住民が安心して豊かな生活と人生を享受するためには交通権の保障と行使が欠かせない。地域の交通政策づくりは、生活交通だけでなく、地域福祉の課題でもあり、教育、地域コミュニティなど、住民が地域で生きていく上で土台となる総合的な社会的政策づくり。したがって、この問題を狭くとらえたり、決して曖昧にせず、よりよいものにしていく努力を約束していただけるか。

副市長）言われた理念に基づいて、市民にとって利便性の高い、利用しやすいものにするために、引き続き検討していく。

6月議会の主な議決項目

●御所スポーツフェスティバル（補正予算）

従来の市民体育祭に代えて、御所市がにぎわう新時代のスポーツの祭典として開催する。（事業費403万7000円）

●副食費無償化事業（補正予算・専決処理）

物価高騰に伴う子育て世帯支援として、令和5年4月分から令和6年3月分までの①公立保育所・幼稚園に通う児童に係る副食費の無償化、②私立及び市外公立の保育所（園）・認定こども園等に通う児童に係る副食費の無償化に伴う当該施設に対し副食費の負担を行う。

①（事業費543万6000円）、②（事業費601万8000円）

●電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援給付事業（補正予算・専決処理）

低所得世帯への電力・ガス・食料品等価格高騰に伴う負担を軽減するための支援として、住民税非課税世帯に対し1世帯3万円を支給する。

（事業費1億5480万円）

●学校給食費補助金（補正予算・専決処理）

物価高騰に伴う子育て世帯支援として、令和5年4月分から令和6年3月分まで（8月除く）の①市立小中学校以外の学校等に在籍する市内在住児童生徒の学校給食費を補助する、②御所市立小中学校に在籍する児童生徒の学校給食費を無償化する。

①（事業費502万7000円）、②（事業費4273万5000円）

●（仮称）御所市防災市民センター建設事業請負契約の変更（資材高騰等による）

（変更前）29億9539万3500円

（変更後）36億141万6500円（追加額）6億602万3000円

トピックス

6月26日、御所市議会6月定例会で原水爆禁止国民平和行進奈良県実行委員会からの「核による威嚇ではなく核兵器廃絶を」の要請を受けて「日本政府に核兵器禁止条約の参加・調印・批准を求める意見書」が決議されました。

核兵器禁止条約は、2017年7月7日に国連で採択され、2021年1月22日に発効となり、現在86か国が署名し、65か国が批准しています。日本政府は唯一の戦争被爆国でありながら、署名も批准もしていません。

この条約は、核兵器は非人道的な兵器であり、開発、生産、実験、製造、取得、保有、貯蔵、使用とその威嚇にいたるまで、核兵器に関わるあらゆる活動を禁止しています。

御所市の意見書決議で、日本政府に核兵器禁止条約への参加を求める地方議会の意見書が659に達し（2023年7月7日現在）、全国1788議会の約37%になりました。

奈良県内では、御所市の他に、生駒市議会、香芝市議会、橿原市議会、斑鳩町議会、安堵町議会、三郷町議会、平群町議会、川西町議会、田原本町議会、三宅町議会、王寺町議会、河合町議会、上牧町議会、広陵町議会、大淀町議会、山添村議会の16議会で決議されています。